

国際科目

アカデミックリテラシー&プレゼンテーションⅠ

前期・必修・2単位

Academic Literacy and Presentation I

担当教員 高橋真理子・さくまはな

到達目標（目的含む）

アート・デザイン領域の研究に必要な基本的なアカデミックリテラシー、英語を用いたプレゼンテーションの基礎的能力を身につける。

授業の概要

芸術工学で必修の国際的なコミュニケーション力ならびにプレゼンテーションのための基礎的能力を身につける。海外でのワークショップへの参加、展覧会等での発表等、国際的な場でのプレゼンテーションに必要な実践力の獲得を目指す。具体的には、日本語でのアカデミックリテラシーに関する演習の後、英語を用いての各自の研究の紹介文やオンスクリーンプレゼンテーションの制作を行い、口頭発表を行う。

授業計画

- 1：オリエンテーションと演習課題の説明
- 2：自分の研究を紹介する エクササイズ 原稿作成
- 3：自分の研究を紹介する エクササイズ 原稿作成
- 4：英文作成の基本 エクササイズ
- 5：英文作成の基本 エクササイズ
- 6：英文作成の基本 エクササイズ
- 7：自分の研究の概要をまとめる（英語）発表原稿・パワーポイントデータ添削
- 8：自分の研究の概要をまとめる（英語）発表原稿・パワーポイントデータ添削
- 9：自分の研究の概要をまとめる（英語）発表原稿・パワーポイントデータ添削
- 10：自分の研究の概要をまとめる（英語）発表原稿・パワーポイントデータ添削
- 11：プレゼンテーション エクササイズ（英語）
- 12：プレゼンテーション エクササイズ（英語）
- 13：口頭発表に向けて 発表原稿・パワーポイントデータの完成
- 14：口頭発表リハーサル
- 15：口頭発表

授業時間外学習

自分の専門分野の英語の文献を手にとる習慣をつけておくのが望ましい。

評価方法

各種制作物と発表会の内容を総合評価する。

使用テキスト

英語での原稿作成・パワーポイントの制作に必要な素材は、指示に従って各自準備する。

各自準備物

随時指定、配布する。

その他

様々な機会を生かして、英語を用いるシンポジウムや特別講義等への参加を履修者に義務付ける場合がある。授業内容とスケジュールは、演習課題の進展状況をみながら必要に応じて適宜調整する場合があるので、連絡や掲示に十分注意すること。

アカデミックリテラシー&プレゼンテーションⅡ

後期・選択・1単位

Academic Literacy and Presentation II

担当教員 高橋真理子・さくまはな

履修制限等

本科目の履修者は、アカデミックリテラシー&プレゼンテーションⅠを履修済みであること。

到達目標（目的含む）

アート・デザイン領域の研究に必要なアカデミックリテラシーに基づき、英語を用いて自己の研究についてプレゼンテーションできる能力を身につける。

授業の概要

芸術工学で必修の国際的なコミュニケーション力を基礎とした、芸術文化や科学技術に関する専門的プレゼンテーションのための応用力を身につける。アカデミックリテラシー&プレゼンテーションⅠで身につけた基礎力を発展させ、特に英語での執筆や口頭発表の向上に重点をおく。可能な場合には、学内外の発表会等への参加も生かしつつ、自己の作品や論文の英語での紹介、海外でのワークショップへの参加、展覧会等での発表等、国際的な場でのプレゼンテーションに必要な実践力の獲得を目指す。

授業計画

- 1：オリエンテーションと演習課題の設定
- 2：自分の研究領域・研究の位置づけを明確にする
- 3：リテラチャーレビュー エクササイズ1
- 4：リテラチャーレビュー エクササイズ1
- 5：リテラチャーレビュー エクササイズ2
- 6：リテラチャーレビュー エクササイズ2
- 7：リテラチャーレビュー 報告
- 8：英語アカデミックライティングとは
- 9：英語アカデミックライティング 英文作成・添削
- 10：英語アカデミックライティング 英文作成・添削
- 11：英語アカデミックライティング 英文作成・添削
- 12：英語アカデミックプレゼンテーション エクササイズ
- 13：英語アカデミックプレゼンテーション エクササイズ
- 14：英語アカデミックプレゼンテーション リハーサル
- 15：口頭発表

評価方法

各種制作物と発表会の内容を総合的に評価する。

使用テキスト

随時指定・配布する。

各自準備物

英語でのプレゼンテーションの制作に必要な素材は、指示に従って各自で準備する。制作を行う授業には、各自のパソコン等を持参すること。

その他

様々な実践の機会を生かして、英語を用いるシンポジウムやワークショップ、講義等を本授業に組み入れる場合がある。授業内容とスケジュールは、様々な実践の機会を活用するため必要に応じて適宜調整するので、連絡や掲示に注意すること。

アカデミックコミュニケーション

前期・必修／選択・2単位

Academic Communication

担当教員 長野真紀・今村文彦

履修制限等

協定校・クムルス加盟校対象留学生国外受験入試入学者および、私費留学生入試入学者（M1）は必修とする

到達目標（目的含む）

読む・書く・聴く・話す力を養い、学術的なテーマについて「自分の意見を述べる」「相手の意見にコメントする」総合的な会話を習得することを到達目標とする

授業の概要

日本語を母国語としない留学生を対象に、アカデミックな場面での日本語によるコミュニケーション（研究発表会、グループディスカッションなど）の基礎的な能力を身につける。日本語を使って自分の考えを伝えることができるよう、具体的な研究内容や制作活動に適切な表現を学ぶ。各自の研究テーマに沿った知識や情報を伝える表現力と、場面や状況に合った対話力の向上を目的に、実践的なコミュニケーション能力の育成を図る。

授業計画

- 1：オリエンテーション：全体ガイダンス
- 2：文章作成①／短文を書く、助詞の使い方、発表
- 3：文章作成②／短文を書く、助詞の使い方、発表
- 4：文章作成③／短文を書く、助詞の使い方、発表
- 5：M2 発表会聴講、レポート作成
- 6：レポート発表、ディスカッション
- 7：聴解・聴読解練習①／会話の聞取り
- 8：聴解・聴読解練習②／会話の聞取り
- 9：D3 発表会聴講、レポート作成
- 10：レポート発表、ディスカッション
- 11：研究計画書① 目的／作成、発表
- 12：研究計画書② 内容／作成、発表
- 13：研究計画書③ 方法／作成、発表
- 14：口頭発表① グループディスカッション
- 15：口頭発表② グループディスカッション

評価方法

課題提出率および発表・ディスカッションの内容を総合的に評価する。

使用テキスト

授業中に資料配布

各自準備物

辞書（授業中の携帯電話による電子辞書の使用は認めません）

その他

日本語による読み・書き・会話を日常的に学習する習慣を身につけておくこと。